

恒例の写生会が、寺田縄にある、平塚市埋蔵文化財調査事務所を会場に行われました。当日は海の日、職員の方々は休日にもかかわらず、私たちを受け入れてくださいました。

部屋の中央、テーブルの上には初めて見る土器、石器、首飾り等が並べとありました。いずれも平塚市内から掘り出された遺物です。抱えられるような土器、手のひらに乗るような小型の土器、石器。今の私たちが身に着けても相応しい、首飾り等々

今から何千年も前の遺物もあります。いずれも平塚市の宝ものです。じっくりと見て描き上げます。



こんなに沢山の遺物が並べられました。

右側の大きな土器は「有孔鏝付土器」(ゆうこうつばつきどき)と云って、寺田縄の北にある、岡崎小学校の校地から発掘された貴重な土器です。かけらが埋まっていたそれを一つずつ接合しました。

時代は4500年ほど前、縄文時代の中頃、縄文人によってつくられ、使われていました。

よく見ると、壺の上の方に沢山の小さな穴があげられています。また、中央の模様は何に見えましたか? 「宇宙人」、「ひと」、「カエル」・・・さあ、何だろう。

土器がどのように使われていたかも含め、想像をめぐらせてください。

古代の人たちからのメッセージを話し合ってください。



担当の中嶋さんから展示された遺物の説明を受けます。



これが弥生時代、こっちは古墳時代ですよ。



説明の後、よく観察して、描く遺物を決めました。



写生に着手します。 大型の土器（壺）はばらばらの状態で発掘され接合の様子が
良く分かります。 奥にお座りの方が担当の菅原さんです。



大きな背中はお父さん。小学校の時代を思いだしているのでしょうか？



写生は進みます。ネックレスが画面の中央に描かれます。



大きな画用紙、みんな真剣に取り組んでいます。





真剣になって描いた作品は、平塚市のコンクールに応募します。作品は8月に、平塚市の庁舎に掲示されます。

また、寺田縄のふれあいまつり、「かっぱまつり」で自治会館に写真を掲示します。

夏休みに入る前の子ども会行事、写生会 「一日、芸術家」が終わりました。